



くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ARTPOLIS

くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ARTPOLIS

2013年度 第19回
くまもとアートポリス推進賞

熊本県土木部建築住宅局建築課
アートポリス・UD班

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
Tel:096-333-2537 Fax:096-384-9820
<http://www.pref.kumamoto.jp/site/artpolis/>



3



4



5



1



2



6



7

くまもとアートポリス推進賞

- 1 大江の舎／親誼書房 04
- 2 T邸 05

くまもとアートポリス推進賞選賞

- 3 風と共に 06
- 4 中九州クボタ本社・物流センター 07
- 5 南阿蘇原眼科 08
- 6 光陰Archive／長洲の家 09
- 7 坪井の家 10
- 8 渡邊総合内科クリニック／高森わたなべ薬局 11



8

2013年度 第19回 「くまもとアートポリス推進賞」 の選考を終えて

選考委員長 北野 隆

「くまもとアートポリス推進賞」は、「くまもとアートポリス」事業の一環として、質の高い優れた建造物を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境や建築文化等の向上及び豊かな地域づくりを図ることを目的に、1995年より行なわれている事業です。

今年度の「くまもとアートポリス推進賞」には、23点の応募がありました。応募作品は専用住宅・事務所・病院・介護施設・飲食店・火葬場など多岐にわたり、鉄筋コンクリート造・鉄骨造・木造など、構造や規模も大小さまざまでした。

第1次選考の書類審査は、全作品の設計者・施工者・事業主などを隠したうえで、選考委員(7名)が各自の持点10点をA(3点)・B(2点)・C(1点)の3段階に分けて評価しました。各選考委員の評価を集計し、点数の上位から下位の全作品について討議し、選考委員の様々な意見も加味しながら、第2次選考の現地審査作品・9作品が選出されました。これらの提出図面を見て、設計図や写真の配置、大きさなどをもう少し工夫すれば、自らの主張をより上手く表現できるのではないかと感じました。

第2次選考の現地審査では、設計者には建築のコンセプトや構造など、事業主には建築の使い方などについて質疑を行いました。また、現地審査では、書類審査(設計図)では把握できない周辺環境との関係、建築空間の取扱い、素材の感触などを体験できました。

「くまもとアートポリス推進賞」の大きな特徴は、設計者・施工者・事業主の三者を表彰するところにあります。質の高い優れた建造物を造るには、三者が一体となって協力することが必要です。

最終的には「推進賞」として「T邸」・「大江の舎／親誼書房」の2作品、「推進賞選賞」として「南阿蘇原眼科」・「渡邊総合内科クリニック／高森わたなべ薬

局」・「中九州クボタ本社・物流センター」・「光陰 Archive／長洲の家」・「風と共に」・「坪井の家」の6作品が選ばれました。

これら8作品については、選考委員の先生方が詳細な講評を述べられていますから、ご覧ください。

また、これら8作品について、私なりにそのデザイン手法を分類すると次のようになるように思われます。

○設計者は、事業主の要望を加味しながら、うまく作品に仕上げているもの

- T邸
- 大江の舎／親誼書房
- 中九州クボタ本社・物流センター

○建築素材を生かしながら、周囲の環境と融合させた作品

- 南阿蘇原眼科
- 渡邊総合内科クリニック／高森わたなべ薬局
- 光陰 Archive／長洲の家
- 風と共に

○設計者は、はっきりしたデザイン・ポリシーを持ち、そのデザインを追求した作品

- 坪井の家」

今年度の「くまもとアートポリス推進賞」の応募作品23点は、質の高い作品が多く選考するのに苦労しました。今回の審査で感じたことは、この「くまもとアートポリス推進賞」が熊本県内の建築関係者に浸透したことです。それは現地審査での設計者・施工者・事業主との質疑応答から何うことができました。「くまもとアートポリス推進賞」も本年度で19回を数え、熊本在住の建築家の育成や熊本の建築文化の向上に大きく貢献していることが感じられました。



事業主 一木 和彦
 設計者 ばん設計小材事務所 小材 健治
 施工者 株式会社三友工務店
 所在地 熊本市中央区大江
 竣工年月 2012.3
 用途 専用住宅
 構造 W造一部RC造
 階数 2階
 敷地面積 278.43㎡
 建築面積 127.93㎡
 延床面積 151.70㎡

くまもとアートポリス推進賞 大江の舎／親誼書房

父が残した二万冊の蔵書を最大限引き継いだ家。住まい手と建築と書籍が見事な調和を保ち、独特で豊かな世界を創出していることに心が動いた。

閑静な住宅地のなか、既存の外部空間を活かした控えめな姿は新築であることを感じさせず、軒の高さを平屋同然に抑えた屋根と庭の緑が調和している。

玄関の扉を開くとコンクリートの土間空間が伸びている。ギャラリーでもあり日常の実用的な動線空間でもあるこの土間には上方から木漏れ日のような光が差し、一瞬、伝統的民家に入ったかのような感覚を抱かせる。

木造平屋のなかに挿入された2階建のコンクリートボックス部分は、上階に配置することになった膨大な書籍の荷重を受け止め、住宅にユニークで非日常的感觉にあふれた背骨のような空間を提供している。屋根裏空間的な書庫は、そのコンパクトさと書籍のボリュームゆえにさまざまな記憶が埋蔵された濃密な異空間であるが、圧迫感ではなく心地よさと落ち着きを感じるのは、床の半分がグレーチングとなっていて下階の生活空間の気配と繋がっているからでもあろう。

木造の生活空間部分は、建築と家具調度品が一体的な調和を見せて庭に開いており、シンプルで洗練された居場所が形成されている。

書籍を引き継ぐことで得られた時間的な価値を空間体験で感じられることがこの作品の魅力である。それを施主と建築家がともに作りあげたことが素晴らしい。

(高橋 晶子)





事業主 田中 弘敏
設計者 大森創太郎建築事務所 大森 創太郎
施工者 有限会社藪田建設
所在地 熊本市中央区新大江
竣工年月 2012.1
用途 専用住宅
構造 W造
階数 2階
敷地面積 147.15㎡
建築面積 73.17㎡
延床面積 93.90㎡



くまもとアートポリス推進賞

T邸

旅館の離れのような、三つの庭を眺める私邸。
 軒高は2階建ながら5.55mと低く押さえられて、住宅街に静かに佇む。
 施主の要望で3台分の駐車場が確保され、幅80cm程のアプローチが加
 わってポーチ、玄関へと向う。

味わいがある、落ち着ける室内。
 間取りは、幼いお子さんが巣立った後、老いた夫婦が1階だけで暮らせる
 ようにとの要望による。木々とともに自然な風合いの石が敷かれた小さな庭が
 三つあり、一つの庭が二つの部屋・空間から眺められる設え。

中央の坪庭には、食卓が面して、風や光を呼び込む。
 ゲストルームとしての和室から眺める庭は、杉の型枠が写されたRCの塀に
 囲まれ、L字の大きな開口部によって部屋と一体化することができ、玄関ポー
 チからも玉砂利が視界に入る。浴室に面した三つ目の庭は、大きな窓が開い
 て露天風呂気分が味わえ、台所の袖からも緑が映る。

食卓と居間にある、二つの吹き抜けは、二階の子供部屋に面し、そこを走る
 太い梁が安定感をもたらす。台所と食卓の間のオーダーメイドのカウンター
 は、調理器具だけでなくPCやプリンター、FAXまでもが測ったように収納さ
 れ、主婦の書斎も兼ねそうだ。

このカウンター越しに食卓の向こうの庭が眺められるが、この立ち位置が、
 このT邸の“へそ”に思えた。

物干しスペースが屋内と屋外の2箇所があり、来訪者や隣人の目には触れ
 ない配慮がなされている。

4.5坪弱の敷地に述べ床28坪の住宅だが、庭と吹き抜け、統一された和
 の色調によって、十分な広がりを生み出した。

「施主が好む物や事柄」に「設計者がどう提案するか、できるのか」と設計
 者の弁。施主とは相当な回数の打ち合わせを重ねたと言う。

随所に見られる工夫の数々が、それを物語っていて、住み手である施主の
 豊かで上質な暮らしぶりが目に浮かぶ。

(西嶋 公一)



事業主 室井 守
設計者 現代建築研究所 西森 晃
施工者 現代建築研究所合同会社
所在地 人吉市東間下町
竣工年月 2013.5
用途 専用住宅
構造 W造
階数 2階
敷地面積 361.87㎡
建築面積 158.75㎡
延床面積 183.59㎡

くまもとアートポリス推進賞選賞

風と共に

可能性がいっぱいある計画だと思った。一番の理由は、全体の形と平面計
 画がなんともチグハグな関係になっていて、その不安定ときわどきのゆえに、こ
 こから先、スタディを加えていくことで、きつといろいろな方向に発展するに違
 いな、と思われたことだ。

具体的に言えば、全体の形としては、ひとつの箱型のまとまりを指向しなが
 らも、平面計画としては、中庭を挟んだクラスターという分散を指向していて、
 普通なら同居できないはずの求心性と分散性がひとつの建物に共存してい
 る、という希有なことが起きている。この歪みあるいは軋みのなかに、展開する
 エネルギーが隠されていると思う。

こうした矛盾のおかげで、とくに成功しているのは、中央のデッキスペースだ
 と思う。そこには、リビングと寝室との心理的な距離を与えながら、中庭ともト
 オリニワとも呼べないような、今まで見たことのないような外部空間の萌芽を
 見ることができる。

惜しいのはもちろん、和室の上部の大きな空間、正面の格子の破風空間が
 未使用な点だ。この魅力的な空間への新たな機能の構想はそのまま新しい
 「生活の型」の構想になる、という予感がある。

(青木 淳)





事業主 株式会社中九州クボタ
設計者 IGA建築計画 入江 雅昭
施工者 株式会社佐伯建設熊本支店
所在地 菊池郡大津町
竣工年月 2013.2
用途 事務所、会議室、倉庫
構造 S造・W造
階数 2階
敷地面積 19,478.85㎡
建築面積 6,022.85㎡
延床面積 7,937.73㎡



くまもとアートポリス推進賞選賞

中九州クボタ本社・物流センター

熊本県を中心に、農業機械販売および修理メンテナンスを行う会社が作った本社と物流センター。敷地は熊本市内と阿蘇をつなぐ豊後街道とミルクロードの交差点に面し、九州自動車道の熊本インターまで7キロと、戦略的な拠点として申し分のない立地である。約2haの敷地には、3棟の建物がアスファルト敷の駐車場を囲むように建てられている。3棟とは会社の本社機能とメンテナンス部品倉庫を含む本社棟、営業所長会議や社員の研修を目的とした会議研修棟。営業所へ送る大型農業機械の一時保管場所である倉庫棟であり、それぞれに違う表情を持っている。本社棟は敷地の土に樹脂を混ぜた左官仕上げ、研修棟は焼杉と、土や周囲の杉林とのつながりを意識させるものである。これに対して一番大きい倉庫棟は、工業製品のアッセンブリーで一番ドライな仕上がりとなっている。私は全体を性格の異なる3棟に分けることには同意するものの、その間をつなぐ広大なアスファルトの駐車場が広すぎて、そうした素材感の違いや建物の高さの違いなどが相乗効果をつくり出すに至っていないのが惜しいと思った。特に土壁と焼杉外壁を活かすにはもう少しスケールを絞った外部空間が必要ではないだろうか。この駐車場を前提にすると、大きな庇空間がついた倉庫の構えは豪快、寛容で、相性は一番良い。地域の人とともに色々なイベントもできそうなおおらかなスケール感には好感が持てる。是非、会社の枠を越えた活用をすすめていただきたいと思う。

(つかもとよしはる)



撮影/株式会社 ジェイクス



事業主 原 敬三
設計者 ばん設計小材事務所 小材 健治
施工者 株式会社幸保工務店
所在地 阿蘇郡南阿蘇村
竣工年月 2012.3
用途 診療所、住宅
構造 W造一部RC造
階数 2階
敷地面積 1,140㎡
建築面積 327.11㎡
延床面積 457.11㎡

くまもとアートポリス推進賞選賞

南阿蘇原眼科

この建物は、熊本市で開業30年を迎えた眼科医院の分院として2012年3月に建てられた。数年来、別荘地としても注目されている南阿蘇村。敷地の背後にはなだらかな斜面が続き、眼前には阿蘇五岳を望むことができる。

そんな周辺の景観になじむように、平屋の診療所の背後に、遠景の山並みに重なるような二つの屋根を備えた住居部分(2階建て)の建物が建つ。

こぢんまりとした、落ち着きを感じさせる建物である。周辺の景観を壊さない程度の大きさと、過度なデザインを排すことを目指した結果だという。1階の診療所は、建物の中央部分に「核」ともいえる鉄筋コンクリート造(4桁四方)があり、これを囲むように診察室や処置室が回廊式に配置されている。コンクリート造の囲いの中は、診療所のスタッフルーム。診察の際、患者はこの部分をくると歩いていくことになる。廊下の幅や天井の高さなどが病院ほど大きくなく、包み込むような程よいスケール感が安心感を生んでいる。各室を表示する案内板には、施主の家族が使っていたという着物の古布を使ってあり、柔らかな演出に一役買っている。全体として、眼科医院を待ち望んでいたという南阿蘇地域の人々を迎え受けるような雰囲気を感じさせる。

南側の阿蘇五岳を一望できるロケーション。2階の住居は、この恵まれた条件を最大限に生かすべく、南側にほぼ全面を開放したサンルームを配置した。その内側に位置するリビング・ダイニングルームは12桁の間口いっぱい、横長にとってあり、眺望を楽しむ間取りとしてはこれより他のプランは考えられなかったかもしれない。現地審査の際はあいにくの雨だったが、これからの季節、阿蘇の自然を存分に楽しめるに違いない。

(藤本 英行)





事業主 左村 圭一朗
設計者 有限会社倉田設計 倉田 耕次
施工者 有限会社ウエダホーム
所在地 玉名郡長洲町
竣工年月 2011.3
用途 専用住宅
構造 W造
階数 2階
敷地面積 567.20㎡
建築面積 120.89㎡
延床面積 160.23㎡

くまもとアートポリス推進賞選賞

光陰Archive／長洲の家

熊本県の北部、長洲町は金魚の養殖でも有名な有明海に近い町。その潮風を感じる農村地帯に「光陰Archive」は建っていた。現地に着いたのは夕刻近く。建造物の全体像を見ると、かなり軒が高い印象。そんな中、「小さなお子さんが…」と誰かが声が出た。前のテラス越しに中からほんのりと灯りがこぼれ、あたたかな家族の風景を感じた。まず、玄関に入ると、土間を含め広々とした空間。正面の土壁に灰藍色の波のような模様が強く印象に残る。この趣からすると歳を重ねた方の住居か?と…しかし、大きな吹き抜けのあるリビングに入ると、施主のコレクションの数々が大空間の至る所に飾り散りばめられていて、そちらの方についていってしまうほどだ。施主は小さな二人のお子様を持つ若いご夫婦だった。ミニチュアカーからアニメのフィギュア、ホビーの数々。幼少の頃よりのこだわりのまさにコレクションである。その趣味に空間が相俟っているのか?

施主と設計者がコミュニケーションを幾度も重ね、デザインと機能が両方相俟って、施主の暮らしに寄り添った空間が心地よく感じることに。既製品にはない喜びかと。

好感がもてたのは、先にも書いた建物の前方に設けられたテラスデッキ。「光と陰」がテーマであり、風をうまく取り入れる為、内側外側にも網戸を配している。季節により内部空間となったり外部空間にと二つの使い方があり、もう一つの部屋としての機能性がある。それと、外側の建具には木製を使用し優しく柔らかな印象を受けた。

ただ、リビング2階部分の柱の金具を使ったブリッジの作り方に、各委員より工夫の余地があるとの意見があった。

(大野 郁子)



事業主 柏原 貴智
設計者 blueveda+HNAA(柏原 貴智 + 西山 英夫)
施工者 有限会社ウエダホーム
所在地 熊本市中央区坪井
竣工年月 2013.2
用途 専用住宅
構造 RC造一部S造
階数 3階
敷地面積 218.48㎡
建築面積 71.06㎡
延床面積 167.68㎡

くまもとアートポリス推進賞選賞

坪井の家

目の前には坪井川が流れ、左手すぐのところには交通量の多いT字路があり、その向こうには熊本城を望むという、強い個性を持った立地条件である。間口が狭く(と言っても7m余りあるが)、奥行きが長い土地で、自然、建物は奥に長くなる。そこに、互いに若干ずれた2つの座標を導入して、そのずれを換気や採光用の開口に利用することで、両脇の隣地に正面から面する開口をなくしている。だから、この座標のずれは、隣地側の壁に開口を開けないための、またそれでも光を取り入れ、室内に開放性を持ち込むプラクティカルな手法として、まずは理解するべきだろう。この手法が効果的なのは、建物が構成として、前面側の西に思いっきり開く空間と後面側の空間に、前後で大きく2分されていて、中央の結節点のところで、座標の「折れ」を生じさせているからだ。部屋ごとに、異なる個性が持たされている。そのため、独立性を保った空間単位が絡み合いながら全体を形成しているという印象が生まれている。現地を訪れるまでは、わずかな角度差を持った2座標という手法が作為的に感じられるのではないか、という危惧があったが、それは全くの杞憂で、この手法が巧みに利用されていることを実感した。

(青木 淳)



※撮影/白木 世志一



趣旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残り得る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーが国の内外より推薦を受けた設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種のイベント、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

表彰対象

概ね5年以内に竣工(改造、改修、修復を含む。)した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等(くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く。)とします。

選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| ① ②～⑥の評価ポイントがデザインに反映され、優れているもの | ⑤ 地域づくりに寄与しているもの |
| ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの | ⑥ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの |
| ③ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの | ⑦ 良好な施工が行われているもの |
| ④ 施設の活用に創意工夫がみられるもの | ⑧ 維持・管理が良好なもの |

賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。
事業主(必要に応じて管理者を含む。)、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。

応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

○選考委員(50音順) ※()内はH25.8.1現在の役職

青木 淳(青木淳建築計画事務所代表)
大野郁子(イラストレーター、JAGDA会員)
北野 隆(熊本大学名誉教授)
高橋晶子(武蔵野美術大学教授、ワークステーション共同主宰)
塚本由晴(東京工業大学大学院准教授、アトリエ・ワン)
藤本英行(熊本日日新聞社編集局文化生活部次長兼編集委員)
西嶋公一(オフィス・ムジカ代表、熊本県文化協会常務理事)

○選考経過

募集	平成25年8月1日(木)～9月30日(月)	応募件数23件
書類選考	平成25年10月29日(火)	
現地審査	平成25年12月26日(木)～27日(金)	現地審査件数8件
最終選考	平成25年12月27日(金)	推進賞2件、推進賞選賞6件
表彰式	平成26年 3月14日(金)	



事業主 株式会社R.H.K.
設計者 株式会社後藤横浜事務所 後藤 鉄也
施工者 大石建設株式会社
所在地 阿蘇郡高森町
竣工年月 2013.1
用途 クリニック、薬局
構造 W造
階数 1階
敷地面積 1,240.21㎡
建築面積 300.9㎡
延床面積 298.18㎡

くまもとアートポリス推進賞選賞

渡邊総合内科クリニック／高森わたなべ薬局

高森町は阿蘇の山々に囲まれた小さな町である。この町は歴史的には古く、その雰囲気は現在でも残されている。「渡邊総合内科クリニック／高森わたなべ薬局」のコンセプトはこの雰囲気と同じ匂いのする建物を造り、高森の町並みづくりに貢献したいと言う。

建物は機能ごとに検査棟、スタッフ棟、院長棟、診察・処置棟、X線棟をコ字形に配置して、その中心部に待合・受付棟が設けられている。検査棟、スタッフ棟、院長棟、診察・処置棟、X線棟は木造で待合・受付棟は鉄骨トラスの屋根になっている。このようにクリニックを一体的に大きく作るのではなく、別棟にして高森の町並みに溶け込ませている。

私たちが現地審査で訪れたのは、12月の末で寒い日であった。この「渡邊総合内科クリニック」のコ字形の中心部に位置する待合室には暖炉が燃えていた。本来この待合室は土間の予定を床張りにしたという。暖炉の前には植栽が設けられていた。

外観もいくつかの別棟をうまく配置することで森に見立てて、色彩も緑で統一している。

「渡邊総合内科クリニック／高森わたなべ薬局」はやさしい、親しみのある建物であるが、待合室の暖炉の煙突が高森の町並みにその存在感を表わしている。

(北野 隆)



くまもとアートポリス推進賞マップ

●:推進賞 ○:推進賞選賞

- 第1回 1995年度**
 - 1 小国町立西里小学校
 - 2 東陽村石匠館
 - 3 八代広域行政事務組合 消防本部庁舎
 - 4 株式会社野田市兵衛商店 流通団地営業所
 - 5 清和物産館
 - 6 荒瀬ダムポートハウス
 - 7 出田眼科病院
 - 8 尚玄山荘
- 第2回 1996年度**
 - 9 社会福祉法人慈愛園ノーマンホーム
 - 10 阿蘇白水温泉「曜璃」
 - 11 ふるさとセンターY・BOX
- 第3回 1997年度**
 - 12 久遠子古代の里
 - 13 養護老人ホーム八代市立保寿寮
 - 14 水俣市営洗切団地
 - 15 丸尾焼工房
 - 16 人吉の倉II/平井邸
 - 17 浮島周辺水辺公園
- 第4回 1998年度**
 - 18 老人保健施設 かがみ苑
 - 19 熊本県信用保証協会八代支所
 - 20 HOUSE-H-M
 - 21 水俣市保健センター 水俣市総合もやい直しセンター
 - 22 古閑邸
 - 23 聖母の丘
 - 24 宮原町下宮はまどん公園
- 第5回 1999年度**
 - 25 水上村立湯山小学校
 - 26 中央町総合交流ターミナル「石段の里 佐保の湯」
 - 27 植柳新町公民館(地域学習センター)
 - 28 シルフ・エッセ
 - 29 50M-1棟の森美術館
 - 30 宮崎耳鼻科
 - 31 矢野邸
- 第6回 2000年度**
 - 32 やつしるハーモニーホール
 - 33 城南の舎
 - 34 中央町福祉保健センター「湯の香苑」
 - 35 ネクスステージビル
 - 36 熊本YMCA
 - 37 セカンドサイト
 - 38 霧の斎場
- 第7回 2001年度**
 - 39 往原九州
 - 40 K. Residence
 - 41 つなぎ美術館
 - 42 舞田の舎
 - 43 ガレリアのある舎
 - 44 chase
 - 45 キューネット社員寮「希翔館」
- 第8回 2002年度**
 - 46 久野邸
 - 47 立田山野外保育センター「雑草の森」
 - 48 八代の町屋
 - 49 いのうえデンタルクリニック
 - 50 大野温泉センター
- 第9回 2003年度**
 - 51 熊本保健科学大学
 - 52 i-HOUSE
 - 53 熊本市現代美術館
 - 54 UEDA. Residence
- 第10回 2004年度**
 - 55 九州新幹線 新水俣駅
 - 56 S. W. H
 - 57 田迎の家
 - 58 東海大学付属第二高等学校
 - 59 ひだまりのまち B4
- 第11回 2005年度**
 - 60 k-house in 近見
 - 61 高瀬蔵
 - 62 3 Towers
 - 63 美里町立中央小学校体育館
 - 64 玉名温泉つかさの湯
 - 65 堀田眼科病院
- 第12回 2006年度**
 - 66 阿蘇の舎
 - 67 nina Dental Clinic
 - 68 西の久保公園
 - 69 B-studio
 - 70 永田歯科
- 第13回 2007年度**
 - 71 H-court
 - 72 熊本学園大学14号館(60周年記念館)
 - 73 城下町の住宅
 - 74 多良木町交流館石倉
 - 75 グリーン、ツイード アンド カンパニー アジア エンジニアリング センター
 - 76 AI mall
 - 77 コンパスポイント本社ビル
- 第14回 2008年度**
 - 78 障害者多機能型施設 高森寮
 - 79 B-house in 島崎
 - 80 ジャングルジムの家
 - 81 Chro-e#01(クローイー#01)
 - 82 ガーデンコートゆうかり
 - 83 松本運輸株式会社
 - 84 しらさぎおざや
 - 85 済生会熊本病院 外来がん治療センター
 - 86 barn renovation
- 第15回 2009年度**
 - 87 畑の中の軒家
 - 88 川上酒店
 - 89 i-CUBE#01(アイキューブ#01)
 - 90 光の森の住宅
 - 91 桜木の家
 - 92 R-House in 尻尾
 - 93 YMCA赤水保育園
 - 94 熊本市下通2・3・4番街アーケード
- 第16回 2010年度**
 - 95 道と暮らす家
 - 96 天草文化交流館
 - 97 C-HOUSE
 - 98 芦北町立佐敷小学校
 - 99 百年遺伝子の門
 - 100 T-house in 高森
- 第17回 2011年度**
 - 101 熊本市医師会館・看護専門学校
 - 102 高瀬
 - 103 宮原邸
 - 104 嘉島の家
 - 105 田園住宅(篠崎邸)
 - 106 I-apartment
 - 107 松の湯
 - 108 矢部の家
 - 109 Shipな家
- 第18回 2012年度**
 - 110 行徳眼科
 - 111 八代の家
 - 112 護摩の家
 - 113 器季家カフェ
 - 114 阿蘇くまもと空港国内線ターミナルビル
 - 115 小規模多機能型居宅介護拠点 ハイマートの郷 新築工事
 - 116 ユウハウス
 - 117 House-Sim
 - 118 ±5"SEPPAN BOX
- 第19回 2013年度**
 - 119 大江の舎/親観書房
 - 120 T邸
 - 121 風と共に
 - 122 中九州クボタ本社・物流センター
 - 123 南阿蘇原眼科
 - 124 光陰Archive/長洲の家
 - 125 坪井の家
 - 126 渡邊総合内科クリニック/高森わたなべ薬局

